

夏休み子ども見学デー イベント 「計る、測る、量る！いろいろなセンサー 体験してみよう」を開催しました

8月3日、東北大学青葉山キャンパスのレジリエント社会構築イノベーションセンターで、夏休み子ども見学デーのイベント「計る、測る、量る！いろいろなセンサー 体験してみよう」を開催しました。このイベントは当センターに開設した「疑似日常空間実験室」でセンサーを使った生体データ取得や利用を市内の小中学生に体験してもらうものです。

「疑似日常空間実験室」は、寝具、風呂、台所、居間など朝起きてから夜寝るまでの日常生活に必要な設備を備えています。医工学研究科の永富良一教授、佐藤啓壮特任講師を中心に、生活場面での生体データをさりげなくセンシングし、それを収集・解析することによって、より健康的な生活を送ることができる支援へと繋げるための研究開発を推進しています。

当初定員 30 名を予定していましたが、申し込みが殺到したため 50 名に増やして実施しました。イベントは 3 部からなり、「人間の

動きを見てみよう」では、筋肉の動きの測定、モーションキャプチャを体験、COI 東北拠点で開発中の「魔法のセンサー」の体験では鏡に映るだけでドキドキが分かる試作機の体験、「センサーで遊ぼう」では、宝探し、玉入れ、だるまさんが転んだなどのゲームを通じてセ



8月3日放送の「Nスタみやぎ」で紹介されました

この様子は、東北放送(TBC)の宮城県ニュース番組(Nスタみやぎ)で放送されました。インタビューで「将来は科学者かエンジニアになりたい」と答えていたお子さんがおり、ちょっとうれしく思いました。

(白澤)



チームごとに記念撮影

ンサーの仕組みを体験的な理解という構成としました。子どもたちの動きが予想外にすばしこく、だるまさんが転んだでは、人感センサーと連動したカメラの動作が追いつかないというハプニングもありましたが、COI 東北拠点の研究開発を社会に紹介する試みとしては大成功でした。